

一般質問 平成25年3月7日
自由民主党 32番 波多洋治

皆さん、おはようございます。

自由民主党県議団波多洋治でございます。

本日もたくさん傍聴いただきました。ありがとうございます。

今回で37回目の質問ですが、昨年12月の議会には登壇できず、知事さんには壇上から知事御就任おめでとうの言葉がかけられませんでした。ハネムーン期間を過ぎたとはいえ、改めておめでとうを申し上げたいと思います。

伊原木知事にあつては、県民福祉の向上のために、県勢発展のために、長い道のりを歩くわけでございます。どうぞ御健康に御留意をいただき、着実に、確実に、もっともっと住みやすい岡山、みんなが笑顔で生き生きと過ごせる岡山実現のために、知事という王道を歩いていただきたいと存じます。その伊原木知事から、先般、感謝状を贈呈されました。ありがとうございます。わずか10年勤続の表彰とはいえ、私にとりましては単なる一里塚にすぎませんが、私もまた、知事同様、県民福祉の向上のために初心を忘れることなく、県民の負託を受けた二元制の代表として、志と緊張感を持って車の両輪の役割を果たしていきたいと念ずるところであります。

さて、我が国は大東亜戦争に敗れ、6年8カ月に及ぶ占領政策のウォー・ギルト・インフォメーション・プログラムにより、日本人は戦争の罪悪感を埋め込まれ、昭和22年5月3日に施行された日本国憲法によって陸海空軍を保持することを禁止され、みずからの国のみずからの力で守るといふ、独立国としてはまことに真つ当な権利を奪われてしまいました。それは、自国の安全と平和を他国に委ねるといふことであります。結果、国家意識が欠落し、みずからの安全のみずから守るといふ侍の気概が失われ、本来のあるべき姿を見失ってしまいました。それは、2月28日、衆議院本会議において安倍首相の施政方針演説の冒頭の「一身独立して一国独立する」という福沢諭吉の説く独立不羈の精神を失ったのであります。それは、政治の世界でも教育の世界でもしかりであります。今日のさまざまな社会問題の根底に横たわるものの原因は、敗戦後の体制にあります。戦後レジームからの脱却こそ、まさしく安倍内閣の目指すものであります。

ところで、伊原木知事にあつては、地方の知事とはいえ、194万県民を預かる政治家でございます。その思想において、その志において、その信念において、そしてその歴史観において、揺るぎないものを持ってこそ真の政治家であります。私は、過去に石井前知事に対して、政治姿勢を問うたことがございますが、大変残念ながら答えは満足のいくものではありませんでした。以下、3点につき、伊原木知事の政治姿勢についてお伺いしたいと思います。

間もなく2年目を迎えようとしております東日本大震災、その直後に天皇陛下は国民に向けて震災に関するお言葉を発せられました。たくさんの団体に対する献身的な努力に対して感謝の意を寄せられましたが、まさしくその冒頭の言葉は、自衛隊でございました。岡山県には、日本原と三軒屋に2つの駐屯地があり、前知事は、東日本大震災での御労苦に対し、感謝状を贈り、その労をねぎらいました。しかしながら、前知事は、ほとんど駐屯地には足を運ぶこともなく、感謝状の贈呈も県庁内でなされたことでした。今まさに2つの駐屯地はもとより、自衛隊岡山地方協力本部とともに、県がさまざまな防災訓練を展開しているとき、一たび災害が発生すれば、県民の安全を守る

かなめこそ、自衛隊にほかなりません。私は、新年度早々にぜひ時間を調整され、2つの駐屯地を訪問し、隊員を激励していただきたいと思っております。自衛隊との太いパイプを持ち、信頼関係を持って連携することこそ肝要であります。知事の自衛隊への思いと早期激励訪問に対する御所見をお伺いいたします。

次に、台湾問題であります。

本年1月、エバー航空が4月からの岡山就航計画を発表されました。台湾からは、毎年約6,000名の観光客が岡山県に宿泊しており、以前も、そしてこれからも、台湾との交流は進展していくものと確信しております。親日的であり、親切であり、一たび日本人が台湾を訪問すれば、実に温かく歓迎してくれます。そのような中、昨年1月27日、135名の台湾人観光客を迎えました。岡山県は、マスコットキャラクターももっちが岡山空港で出迎え、そのとき、ももっちの縫いぐるみは小さな台湾国旗を手にして迎えたのであります。その数日後、中日友好団体なるものが国際課並びに観光課に対し、日中共同声明違反であるとの抗議に及び、事もあろうに岡山県はこれに謝罪し、再発防止に努めるとの回答をしたのであります。私は、岡山県に対し、抗議の趣旨は理解するが、台湾国旗を振ったことは誤りではなかったと、毅然たる態度で答えるべきであるとの申し入れを行いました。なぜなら、日本は中華民国にも中華人民共和国にも返還しておらず、1952年まで日本領であった台湾の領有権を放棄しただけであります。その帰属については、未定というのが国際法上の解釈であるからであります。しかるに、前知事の答弁は、従来からの県の取り扱いに沿ったものというものであります。私は、全く納得していなかったのであります。伊原木知事の台湾に対する思いと、今後の台湾交流に対するお考えをお伺いいたします。

次に、池田家についてお伺いいたします。

池田光政公が3代将軍徳川家光公から光の字を賜ってより以来、徳川家の信任厚く、池田家は明治廃藩置県まで藩主を継ぐことになりました。岡山城とその周辺のお堀、後楽園や閑谷学校、林原美術館に、そしてこの県庁の土地すら、池田家より譲り受けたものであります。岡山県の文化遺産・土木遺産を支えるもの、それはまさしく池田家であります。昨年7月21日、よわい85歳でお亡くなりになりました第16代当主でありました池田隆政公は、昭和27年に今上天皇の姉君厚子様と婚姻されました。それほどまでに岡山県とのゆかりもあり、岡山県の歴史と文化を支えているわけであります。その池田隆政公が戦後間もなく、池田牧場、現在の池田動物園を開園されてより60年にわたり子供たちに夢を与えてこられたわけであります。のみならず、厚様がいらっしゃる関係から、県民皆さんにも御皇室には特別の親しみを持ってきたわけであります。日本文化の華とも言える御皇室に対する知事の思い、そして岡山県の歴史と文化を支えてきた池田家への知事の思いをお聞かせください。

実は、池田家はお子様には恵まれませんでした。御当主が亡くなられ、厚子様お一人になられたわけであります。池田家の終えんは、系譜存続を切に願う私にとりましては、まことに痛切のきわみであります。その点、伊原木知事には十分におもんぱかっていたいただきたいと思っております。

続けて、池田動物園についてお尋ねをいたします。

ことしの1月、縁あって一人の青年が小生の事務所を訪ねてきました。彼は動物が大好きで、池田動物園を何度も訪ね、やがてこの池田動物園が衰退していくことを感じるようになり、大変な危機感を持って、動物園を守るために何とかしてほしいと要望してきたのであります。それから、私は必死になって動物園を調べました。次第にいろいろなことが見えてきたのであります。

まず初めに、知事さん、池田動物園に行ったことがございますか。もし行ったことがございましたら、その感想をお聞かせください。

そのときの入園料は幾らでしたか。知事さんは、何とも思われなかったかもしれませんが、両親と小学生2人の家族4人で行きますと、3,360円もかかります。近隣の動物園で申しますと、神戸市立王子動物園、福山市立動物園などは、子供は無料です。どうしてこんなことになるか。それは、池田動物園が株式会社だからです。株式会社池田動物園の収入は、入園料しかないのであります。経営は赤字と聞いており、これまで厚子様の援助などで辛うじて運営できています。岡山県は、設立から今日まで、公的資金の投入なり、物的にも、あるいは人的にも支援したことがございますか。知事さん、岡山県の池田動物園に対する支援の実態をお教えてください。

知事さん、池田動物園は純然たる民営であり、確かに私企業ではありますが、単なる営利を追求する企業とは違いますよ。ヒヨコやウサギを抱きかかえる感触と力かげんは、命ある者への慈しみや優しさを教えてくれます。池田動物園は、子供たちに動物に触れさせ、命の大切さを教える教育施設ですよ。そして、それはかけがえのない岡山県の財産ではありませんか。一たび日本航空が傾けば、何兆円、何千億円の税金を投入して更生させるではありませんか。なぜ池田動物園にいささかの援助もないのですか。知事さん、池田動物園を所轄する部署はどこですか。子供たちの科学教育、理科教育の場でもありますから、教育委員会ですか。企業とも観光とも関係しますから、産業労働部ですか。種の保存とも関係しますから、環境文化部ですか。そのほかにも動物の生態研究やレクリエーションとも関係しますし、憩いや安らぎを与える公園の働きもあり、環境教育や調査・研究も動物園の役割であります。どこが池田動物園を担当するのでしょうか。池田動物園の旧の正門には、昭和37年、あの第1回の岡山国体の年につくられた大理石の碑がございます。その碑文には、池田隆政公と厚子様の安泰と幸せを祈り、多くの企業名とともに、岡山県、岡山県農林部の名が刻まれております。これは一体何を意味しているのでしょうか、あわせてお伺いいたします。

さて、池田動物園は103種581頭もの動物を飼育しており、その特徴は山を利用した動物園として有名であります。2月21日から3日間にわたり、産経新聞による池田動物園60周年の特集記事が組まれました。知事さんもお目通しをいただいたと思いますが、この記事は、動物園が直面しているさまざまな問題を浮き彫りにいたしました。しかるに、昨年の入園者数は12万5,000人、これはお隣の福山市立動物園の入園者数37万人に比べると3分の1程度であり、まことに少ない数字であります。入園料しか収入の道のない池田動物園にとって、入園者をふやすことは最大の課題であります。本県観光行政の中で、池田動物園の入園者増に向けた政策を打ち出しておられるのでしょうか、産業労働部長にお尋ねをいたします。

ところで、4月から、人と科学の未来館サイピアがオープンします。このサイピアは、プラネタリウムや全天周映像の上映、実験教室の開催、地域の科学技術や産業の展示等に活用し、平成25年度は7万5,000人、平成26年度は8万2,000人の利用者を見込んでおります。事業費は、毎年約5,500万円を計上しています。このサイピアを訪れる子供たちを、池田動物園とタイアップさせる方法はないでしょうか。サイピアと敷地を同じくする生涯学習センターの南端から、池田動物園の北門までわずかに20メートル、子供たちの通路の安全のために、道路沿いの溝の若干の整備をすれば、まことに簡単に動物園に入園できます。池田動物園のアクセス路は道路も狭く、行きどまりで、駐車場も少なく、バスでの遠足等は大変制限されます。もしも来園者の駐車場として、生涯学習センターが利用できるならば、幼稚園や小学校の遠足も飛躍的にふえるのではないかと期待できます。サイピアと池田動物園の校外学習で連携して学習体験の促進を図れば、福山市立動物園に負けない入

園者を誘客できるのではないかと思います。教育長さん、いかがでしょうか。

さて、福山市立動物園は、もとは民間経営でした。しかし、経営悪化などの危機に陥り、福山市がこれを買取り、平成7年から施設の改修整備など本格的に改善策を打ち出し、その結果、備後地区でも屈指の観光スポットとなったということでもあります。知事さん、岡山県が池田動物園に対する物的、人的、財政的援助を含め、最終的には買収も視野に入れるなど、具体的に経営支援に乗り出すお考えはございませんでしょうか。実は、池田動物園にとってそれを一番望んでいることでもあります、知事の御所見をお伺いいたします。

次に、農林水産部長にお尋ねいたします。

先般、小麦の予算がついたんじやろうという問い合わせがあり、早速池田代議士に依頼し、その資料をファクスしていただきました。それによると、大豆・麦等の生産体制を整備するために、平成24年度補正予算緊急整備事業として333億5,700万円の補正予算がついておりました。農業機械のリースや資材購入などに対して助成するもので、これを受けて佐賀県では29億円を計上したとの情報を得ました。しかし、岡山県の農林水産部平成24年度補正予算50億9,000万円の中には、麦・大豆に関しては全く事業名も予算もなく、問い合わせの青年就農者に答えることはできませんでした。なぜこのようなことになるのか、その理由をお教えてください。農林水産部にあつては、国の平成24年度補正の情報は、いつ入手できましたか。緊急整備事業でありますから、麦の耕作面積等は県で掌握していることであり、早速に対応できたのではないかと思います。一体この事業費はどこに消えたのでしょうか。県の農林水産部を通さないで予算が配分される仕組みは、おかしいと思いますが、いかがでしょうか。農林水産省に限ってで構いませんが、ほかに国の補正予算が県を通さないで他の団体を通したり民間の団体に直接交付されるようなことはありますか。そのために、今回の大豆・麦等の緊急整備事業のように、県の農林水産部の補正予算に組み込まれないようでは、岡山県の農林水産業の振興に責任を持つ県行政のあり方に疑問を持たざるを得ないのであります。あわせて、農林水産部長の御所見をお伺いいたします。

今回の補正予算の仕組みの中で大切なことは、農業振興の行政に携わる者と農業人との思いにずれがあることであり、だからこそ知事の実践している生き活きトークは、具体的な施策に当たる執行部にこそ必要ではないかと思います。農業経験のない、あるいは浅い行政執行部にとっても、さらなる現場との太いつながり、強い信頼感を切に望むものであります。農林水産部長の御所見をお伺いいたします。

最後に、教育問題について教育長にお伺いいたします。

教育長さんには、現場に起こるさまざまな問題を抱え、御心痛のことと存じます。特に体罰問題については、過去の事例にまでさかのぼり、これを告発し、あたかも体罰をなした教師を犯罪者扱いにするような風潮は、魔女狩りの様相を呈しております。しかしながら、教育はどこまで行っても教える者と学ぶ者という関係であり、教師と生徒は上下関係にあつて、その中での人格的な触れ合い、ぶつかり合いと心の交流のある世界であります。それがあたかも教師と生徒が対等であるかのごとき、また、話し合えば全ての問題が解決するがごとき、さらには手をつないでゴールをするのがあたかも正しい平等であるかのごとき風潮は、教育をゆがめるものであり、それは誤りである、私は断固として申し上げておきたいと思っております。教えながら育てるという教育の理念の中には、人が人として鍛えられなければならないということでもあるのです。それゆえ、教育の世界には愛と情熱が人を変え、懲戒や体罰を凌駕する信頼もあり、懲戒や体罰が人生の肥やしとなることもあります。そして、それは実に個性的であり、個別的なものであります。これを一くりにして糾弾す

るがごとき風潮は、教育の現場で今日ただいま子供たちと本気で格闘する教師たちを萎縮させるだけであります。ここは、教育行政の責任者たる教育長の強いメッセージが教育現場に向けて発せられなければならないと存じます。教育長の御所見をお伺いいたします。

以上で一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

【答弁】知事

自由民主党の波多議員の質問にお答えいたします。

まず、自衛隊への思い等についての質問であります。私はかねてより、国を守ってくださっている方々には敬意を抱いているところでございます。また、お話のとおり、自衛隊は大規模災害発生時の救助活動等にも大きな役割を果たされており、県民の安全・安心を守るという観点から、今まで以上に自衛隊との信頼、協力関係の構築に努めてまいり所存でございます。県内両駐屯地への激励訪問につきましては、新年度早々にも両駐屯地を訪問できるよう、自衛隊と日程調整を行っているところであり、ぜひとも訪問の上、隊員の皆さんに直接敬意と感謝の意を表したいと考えております。

次に、台湾についての御質問であります。台湾とは人的往来や文化交流が盛んであり、我が国に対して友好的で重要な経済的パートナーとなっており、本県にとってもこのようにつながりが強く、距離の近い台湾との交流は大変重要であると認識しております。お話のように、議会にも御協力いただいて進めてまいりました台湾への航空路線について、この4月3日から岡山と台北を結ぶ週2便の定期運航が開始されることとなり、本県と台湾との交流拡大が大いに期待されます。県では、これまでも台湾の旅行会社を招いての県内観光地の視察・商談会や県産果物等の宣伝・販売などに力を入れてまいりましたが、来年度は新設の台北線の利用促進を初めとしたトップセールス等による台湾への総合プロモーションを強力に展開するなど、台湾との経済分野や市民レベルの交流を一層推進してまいりたいと存じます。

次に、池田家への思い等についての御質問であります。議員お話のとおり、池田家は江戸期を通じ、備前岡山藩を治め、その間、岡山後楽園や旧閑谷学校、新田開発や百間川の開削など、今日の岡山の礎となる多くのすぐれた文化遺産・土木遺産を残されました。現代においても、16代当主の故池田隆政氏が岡山の地に池田動物園を開園され、多くの子供たちに夢を与えてこられるなど、多くの県民が親愛と敬愛の念を抱く存在であったと認識しています。また、長年継承されてきた皇室の存在は、国民の安心のよりどころともなっているところであり、厚子様がいらっしゃる関係もあって、県民の皆様ともども皇室に対して特別の親しみを持って接しさせていただいているところでございます。

次に、池田動物園についての御質問であります。

感想についてであります。私も幼いころには親に連れられて当園を幾度となく訪れた記憶があります。また、最近では、私の子供たちを連れて訪れておりますが、当園は多くの動物と触れ合うことができ、生き物の温かみと命の大切さを学ぶことのできるすばらしい施設であると思っております。

なお、入園料につきましては、明確には覚えておりません。

次に、支援の実態等についてであります。

県としては、これまで観光パンフレットによる紹介や池田動物園と連携したイベントの開催など、集客にもつながる取り組みを行っており、特に所管する部署はございませんが、取り組みの目的に応じてその担当部署が適切に対応しております。また、石碑についてであります。第1回岡山国体で

の行幸啓と池田御夫妻の御成婚 10 周年を記念し、動物園を改修した際に協力した関係者の名前が刻まれたものと聞いております。

次に、経営支援についてであります。池田動物園は学習機能を持つ観光施設といった多様な魅力を有する貴重な施設であると認識しておりますが、県による買収等の対応は困難であると考えております。今後、御相談や支援要請があった場合には、その内容を十分に検討させていただき、岡山市や関係機関と緊密に連携し、経営面での支援を初め何が対応可能か、また、困難な課題への調整をどのように行うかなど、誠意を持って取り組んでまいりたいと存じます。

以上でございます。

【答弁】 産業労働部長

お答えします。

池田動物園についてのうち、入園者増加策についてでございますが、池田動物園の入園者数は、少子化やレジャーの多様化等の影響により、瀬戸大橋開通時を除き減少傾向が続いておりましたが、最近 10 年余りはナイトズーや動物との触れ合いイベント、岡山市の支援による無料開放デーの取り組みなどにより、横ばい状況となっております。同園周辺は、運動公園や太陽の丘公園、新たにオープンするサイピアなど、身近なレジャーや体験学習ができる施設が集積した地域でございまして、PR の強化により、一層の集客が見込まれることから、パンフレットやホームページによるきめ細やかな情報発信はもとより、周辺の施設を積極的に活用し、ファミリー層を対象にしました体験学習型のモデルコースの設定や、県内宿泊者のナイトズー等への誘導などにつきましても、今後、岡山市や観光団体等と連携しまして取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

【答弁】 農林水産部長

お答えいたします。

農業問題についてのうち、まず大豆・麦等の緊急整備事業についてでございます。

本事業は、大豆・麦の生産拡大に積極的に取り組む地域への支援を目的に、国の平成 24 年度補正予算で新たに計上されたもので、県や農業団体等で構成する県農業再生協議会へ国から直接助成金を交付する仕組みとなっていることから、県の補正予算には計上していないところであります。また、国の補正予算案の情報につきましては、1 月 15 日の閣議決定後に入手し、地域協議会の事務局である市町村や農業団体等に情報提供を行ってきたところでございます。農林水産省の補正事業のうち、県を通さない事業はほかにも鳥獣被害防止緊急捕獲等対策や、燃油価格高騰緊急対策などがありますが、県が実施する事業との効果的な連携や責任の所在が不明確になるなどの観点からも問題があると考えております。いずれにいたしましても、農家の方々が事業を有効に活用できるよう、市町村、農業団体等と連携を図りながら、きめ細やかな対応をしてまいりたいと存じます。

次に、現場とのつながりについてであります。

お話の生き活きトークのように、現場に出向き、生の声を聞き、それを施策推進に生かすことは非常に重要であると考えております。このため、私も地域で活躍している果樹、野菜の栽培農家や大規模な稲作農家、さらには先進的酪農家等を訪問し、直接お話を伺うとともに、農業士や青年農業者の

方々との意見交換も行ってまいりました。また、日ごろから農業者の方々と接している職員からも施策提案を募るなど、現場の声を反映した施策の立案や推進に努めているところでございます。今後とも、より一層農業者の方々とつながりや信頼関係を大切にしながら、県農業施策を積極的に推進してまいりたいと考えております。

以上でございます。

【答弁】教育長

お答えいたします。

まず、池田動物園についてのうち、人と科学の未来館サイピアとの連携についてであります。これまで生涯学習センターは、池田動物園と毎年イベントを共同開催するなど連携しており、4月にオープンするサイピアの利用促進のために、動物園を含めた校外学習のモデルコースを学校に提案しているところであります。また、校外学習の子供たちが両施設をスムーズに移動できるよう、センター南門を通行可能にするとともに、動物園の旧北門についても、同様の対応を検討いただいております。駐車場についても、両施設を利用する学校等には便宜を図ることとしております。今後、こうした連携を一層深め、両施設の来場者増加に努めてまいりたいと存じます。

次に、教育問題についてであります。教育の目的は、将来を担う有為な人材を育成することであり、教師は子供との人格的な触れ合いの中で愛情を持って、時に厳しく教え導く大切な役割を担っております。こうした中、懲戒と体罰の区別が明確でないことや、家庭的、社会的環境等が大きく変化していることもあり、学校では思い切った指導ができにくく苦慮している状況もあります。私といたしましては、校長の強いリーダーシップのもと、教師が一丸となってひるまずに真剣に児童生徒に向き合い、それを県や市町村教委が支えていかなければならないと考えております。このため、体罰に関する実態調査をもとに、具体的な事例集を作成し、教師が臆することなく必要な懲戒を行い、自信を持って教育活動に当たれるよう取り組んでまいりたいと存じます。

以上でございます。

【再質問】

再質問をさせていただきます。

農林水産部長が先ほどの予算の仕組みについて問題があるという御発言がございました。このような予算の仕組みの中でよく族議員がそのはびこることがございますが、そういう何か温床になるような懸念がしておりましたので、この問題を取り上げてみましたが、問題があるということであれば、それはそれなりに国に対して、どういう形の要望をしているのか、少し教えていただけたらと思います。

2つ目は、教育長でございますが、サイピアと池田動物園の通路の、これは改修をしないと、先ほどのお話をもし実行していくなれば、公共事業というか、土木のほうとの絡みもあると思うんで、このところについては十分に点検をして、生涯学習センターを通過して池田動物園へ行く途中で子供の事故があつたりしないように、ぜひ御配慮いただきたいというふうに思います。

なお、体罰につきましては、ウィキペディアの体罰の項を引いていただきますと、体罰事例がたくさん掲載されておりますが、その10番目に載せられている案件がございます。これはまさしく現場の教師に対するエールでもあるし、同時に大変な警告でもあります。なぜならば、信頼というこ

の2文字のないところに教育は成り立たない。したがって、現場の教師はそれをかち取るべく教育活動に専心するというのを逆に訴えているのではないかと思います。そのようなことも踏まえまして、ぜひ教育長の強いメッセージをお願いしたいと思います。

質問は農林水産部長でございます。よろしく申し上げます。

【答弁】農林水産部長

再質問にお答え申し上げます。

国に対してどういうふうに申し入れているかとの再質問でございますが、まずこれは平成22年6月に全国知事会を通じて、この問題の是正をお願いしているところでございます。また、先般、中四国農政局の幹部が私のところに来た際にも、口頭ではございますが、是正をお願いしているところでございます。

以上でございます。